

# 命を守るのシートベ

## シートベルト着用・実態調査 (7/20)

車種	項目	通過台数	シートベルト着用台数	着用率
乗用車		307	15	4.9%
トラック・貨物など		203	5	2.5%
計		510	20	3.9%

着用率は  
わずか4%!  
▼場所：国道126号線上り  
▼時間：午後2時～3時  
方向（役場前）

人中3人にも満たないのが実情です。7月20日に国道126号線で行った調査でも、着用「成績」は惨たんたるものでした。

### なぜ、シートベルトをしないのですか？

では、どうしてシートベルトを締めない人が多いのでしょうか。着用しない人の言い分を聞いてみました。これらを一一つ再点検してみましょう。

▼いちいちついたり、はずしたりするのが、面倒くさくてねえ。  
(男・40歳・栗山)

シートベルトの着脱は、ほとんどがワンタッチ式。ほんの2～3秒もあれば済むことです。

「3秒のゆとり」があなたの命を救うのです。面倒だからといって、一つしかない命を危険にさらすのは、あまりにも無謀ではないでしょうか。

▼シートベルトをしていると、初心者のようにカッコ悪いから……。(女・22歳・東町)

何のために車に乗るのでしょうか。あなたは、人に見せるために車に乗っているのですか？まさか、命より「カッコ良さ」の方が大切ではないですかね。シートベルトの必要性をよく知っている人なら、だれも格好悪い

(左上の表)

「わかっているけど、着用しない」—残念なことに、これがシートベルトの実態のようです。

4人に聞きました

なんて思いませんよ。

▼運転を始めて25年。安全運転をモットーにしているから大丈夫。(男・47歳・遠山)

もちろん、安全運転はドライバーの鉄則です。しかし、道路を走っているのは、あなたの車だけではありません。どんなに気をつけて運転していても、他人の事故に巻き込まれる危険性



があることを、もう一度考えてみてください。

▼たとえ衝突しても、ハンドルをしっかりと握って、手足を踏ん張れば、体を支えられると思いますよ。(男・32歳・屋形)

それは全くの思い違いです。車が衝突した時のショックは、信じられないほど大きいのです。例えば、時速20kmで固定壁にぶつかった場合、そのショックは、ドライバーの体重の6倍以上と言われています。これに對

して、腕や足で支えられる力は、せいぜい体重の2～3倍にすぎません。時速20kmでさえこうなのです。50kmや60kmも出しているのでは、とても自分の腕や足だけで、命を守り切れるものではありません。

### きょうから実践シートベルトの着用

このように、シートベルトを着けないでよい理由は何一つないことが、おわかりになったことと思います。さあ、あとはあなたが実践するだけです。

シートベルトは、あなたを守る「命綱」です。「シートベルトなしに車に乗るな！」—今日から徹底してみませんか?!

### シートベルト着用の効果的事例



#### 横転事故 運転者負傷せず

56年4月 三重県 三点式着用

普通乗用自動車を高速で運転中、左カーブを曲がり切れずに暴走し、路上に横転した。

→ 高速で横転・滑走しており、シートベルトを着用していなければ、全身打撲などで死亡又は重傷を負ったものと考えられる。

#### 工作物衝突事故 右手首打撲 | 過問

56年4月 埼玉県 三点式着用

普通乗用自動車を時速約100kmで運転中、雨あがりのためハンドルをとられ、民家のブロック塀に激突。エンジン部と運転席が真二つとなる。

→ シートベルトを着用していなければ車外に放り出されるか、頭部などを強打して、重大事故になったと思われる。